

出会い

西門川中学校 一年 前崎 大河

まえさき たいが

「出会い」ってすごくいいものだな。ぼくは、「夏の庭」という本を読み終えたときにそう思いました。

この本に出てくる、「木山」と「山下」と「河辺」という少年たちは、「ひとり暮らしの老人が、ある日突然死んでしまったら、どうなると思う？」という好奇心から、ある一人のおじいさんを毎日見張ることにしました。ぼくも以前「死んだ人がどうなってしまふのか」が気になって少し考えたことがありました。だから、この三人と同じだなと思いました。

この三人は、おじいさんの見張りをしていたとき、そのおじいさんに見つかってしまいます。そのため、おじいさんの家の草むしりや、ゴミ出しなどをさせられることになりました。しかし、三人は、自分たちが勝手に見張りをしていたことを正直に話し、しっかり草むしりや、ゴミ出しをしました。草むしりをする日々の中で三人とおじいさんは、少しずつ話すようになりました。

そんなある日、三人は大雨の降る中おじいさんから戦争の話を書きました。そして、「昔の奥さんに会いたい」というおじいさんの願いを叶えるために、全国全ての電話帳を使い奥さんの親せきに当たるかもしれない人た